

健康・医療・介護・福祉ニュース

地域医療の

架け橋に

奈良医療センター

COPD(慢性閉塞性肺疾患)とは、長年の喫煙習慣が主な原因となり、肺や気管支の組織が壊れて呼吸がうまくできなくなる病気であり、今まで「肺気腫(しゅ)」や「慢性気管支炎」と呼ばれてきました。

症状としては咳(せき)や痰(たん)、息切れなどから始まり、進行すると少し動いたただけで息切れがするため、普通の歩行や会話も難しくなります。さらに進行すると、心不全や呼吸不全を起こしてしまいます。このようにCOPDは命にかかわる病気であり、早期発見、早期治療が重要となります。

診断は、スパイロメーターという呼吸機能を測定する機器を使用して行います。長期の喫煙歴があり、慢性的に咳、痰、労作時の息切れがあればCOPDが疑われますので、このような症状のある方は、ぜひ専門医を受診してください。

COPDと気管支喘息について

国立病院機構奈良医療センター
診療部長(内科)・呼吸器疾患センター長

玉置 伸二



玉置 伸二
診療部長(内科)
呼吸器疾患センター長

【略歴】平成2年、奈良県立医科大学卒。同大学内科学第二講座学内講師などを経て、平成23年から現職。日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会専門医・指導医、日本アレルギー学会専門医・指導医、日本結核病学会結核・抗酸菌症認定医・指導医。

歩行や会話が困難に

COPDの治療としては、肺の機能を改善して咳、痰、息切れなどの自覚症状を抑える

ために気道が狭くなり(気道狭窄へきょうさく)、咳や「ゼーゼー・ヒューヒュー音」

やハウスダスト、ペットのフケなどに対するアレルギーが関わっていることが多いとされています。

気管支喘息は、治療を怠り放置したり、自己判断で治療を中断すると、繰り返して起きる炎症により気道の構造が変化して、元の状態に戻らなくなってしまう。このようになると喘息症状はより起きやすくなり、より重症になります。

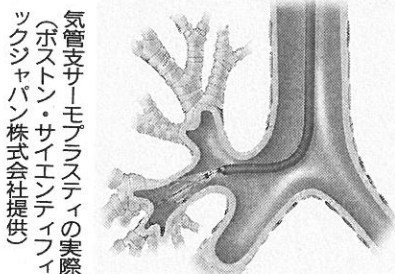
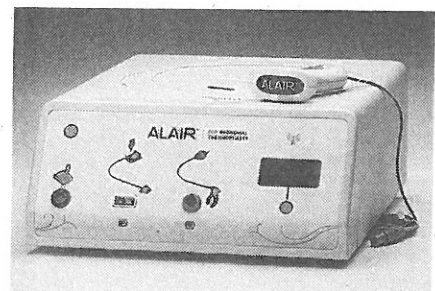
しかし、このような治療を行っても、喘鳴や息切れなどの症状が持続し、日常生活に支障を来させている喘息患者さんはいらっしゃいます。

最近、重症・難治性喘息に対して、内視鏡を用いた新しい治療「気管支サーモプラスティ」が開発されました。これは内視鏡を用いて気管支の周りの筋肉を65度に温めて、収縮する力を弱めるものです(図1、図2)。

気管支喘息の治療として、慢性炎症に対する吸入ステロイド薬が最も効果的で、治療の主役となります。気道狭窄に対する気管支拡張薬との配合剤も用いられています。

治療により気管支が狭くなり、喘息症状が抑えられます。当院でもこの治療を実施できるようになりました。吸入薬などの治療でも改善がみられない方が対象になります。お困りの方はご相談頂ければと思います。

重要なのは禁煙で、この年齢から始めてもCOPDの進行を抑えることができます。その他の治療としては吸入薬などの薬物療法、運動療法、食事療法、酸素療法などがあり、症状によって適切な治療を組み合わせていきます。



気管支サーモプラスティの実像
(ボストン・サイエンティフィック・ツクシヤパン株式会社提供)

治療により気管支が狭くなり、喘息症状が抑えられます。当院でもこの治療を実施できるようになりました。吸入薬などの治療でも改善がみられない方が対象になります。お困りの方はご相談頂ければと思います。

次回は9月28日付掲載予定

独立行政法人
国立病院機構奈良医療センター
星田 徹院長
電話0742 (45) 4591

最新の情報・健康・医療・介護・福祉などに関するニュースを集めて紹介します。